

もぎの郷

通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生まれ、住民の手によって育てられる

May 2022

ソーシャル ファーム ビネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の杜/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎなて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/ゆめ・やりたいこと実現センター/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美

発行/麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643

TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://www.muginosato.jp>

春の活動



紀の川生活支援センター

こじか園

5歳児の子どもたちが絵の具で手形をスタンプしうるこにして、大きなこいのぼりを製作しました。

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1). 麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2). 私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3). 私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとに社会変革をめざします。
- 4). 麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

ノウフク・アワード2021受賞報告!



昨今、農福（ノウフク）連携という言葉が社会的に広がりを見せています。ノウ（自然、農林水産業）とフク（人、福祉）を連携させ各々の課題を解決していく取組です。2010年代から中央省庁内でも省庁を横断する形で「農福連携」という言葉を使いはじめました。この背景には農林水産業（1次産業）従事者の担い手不足が社会的課題となってきたことがあげられます。

政府はノウフクを国民的運動としていくため農水省

を中心に農福連携等応援コンソーシアムという全国初の官民連携ノウフク応援団を設立、このコンソーシアムが農福連携に取り組む優れた事例を表彰し、他地域への横展開を図るためノウフク・アワードを開催しています。

このたび私たちはノウフク・アワード2021で優秀賞を受賞しました。障害のある人たちの権利保障のみならず過疎地の農地におけるセーフティネットとしての意義などが評価され嬉しく思います。

（ソーシャルファームもぎたて 中原 力哉）



卒園式・おともだち式

3月26日（土）卒園式と修了式を行いました。本来であれば、全園児・全保護者・職員で卒園や進級のお祝いをするのですが、新型コロナウイルス感染予防のため、昨年度と同様に卒園式と修了式とに分けて行いました。卒園児は15名。こじか園全体の半数が卒園する形となりました。卒園証書を受け取ったり、1年の思い出の写真を振り返りました。巣立っていくことは寂しくありますが、これから15名の子どもたち

が、こじか園でつけていった育ちの根っこを広げ、一人ひとりがどんな花を咲かせていくか楽しみです。

4月7日（木）にこじか園でおともだち式（入園式）を行い、新しく16名の子どもたちがこじかこの仲間入りをしました。

おともだち式は、新入児と保護者のみで行いました。慣れない場所に落ち着かない様子や緊張している様子、広い場所を走って探索する様子など様々でした。一人ずつお家の方と一緒に前に出てきてもらい、好きな遊びや食べ物を紹介してもらいました。来賓として外部の方をお招きすることはできませんでしたが、こじか親の会の役員の方が、代表として出席して頂き、花束をプレゼントしてもらったり、手遊びなど職員と一緒に歌ってくださり、おともだち式の温かい雰囲気を作っていました。

これから、16名の子どもたちが、どんなこじかこになっていくか楽しみです。

（こじか園 滝本 容子）



法人職員研修をおえて

麦の郷 4つの理念の一つに、「日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展をめざします。」というものがあります。教育研修委員会では、2022年3月12日に初めてリモートを活用した全職員研修会を実施しました。事務局次長の山本哲士さんからは、「麦の郷の理念は、まず目の前の実践があって、その思いを皆で議論しながら創り上げてきた」ものであり、一人一人の尊厳を守るために、生活保障・発達保障・労働保障という3つを柱に実践してきたことを教わりました。

「コロナ禍での実践報告」では、「和の杜」より、イベントが無くなりイライラする仲間の気持ちに寄り添

い「特別な日」をもった事、「こじか園」からは感染症対策を取りつつ、こどもたちの豊かな育ちを保障している事を知りました。

私は、「居住」の報告で「感謝の気持ち」「コロナだけが病気ではない」という言葉にハッとさせられました。目の前の困難に対峙する際、視野が狭くなってしまっているのではないのでしょうか。そういう時こそ、「つれもて」の報告にあったように、多くの人たちとの連携が必要で。様々な人と協働することで、思いもよらないアイデアが出て突破口になることもあります。全職員研修を継続し、ともに学び合う機会を持ち続けたいと感じた1日でした。（麦の郷教育研修委員会 窪原 麻希）

新人職員 辞令交付式



みなさん、麦の郷は、2022年度も新たな正規職員として元気な3名を迎えることができました。3名ともに子ども支援部に所属する保育士です。障害のある子どもたちにとって、なかま達や保育士は、その発達を保障する大切な存在です。第二こじか園所属の野口美加さんが麦の郷の理念を守り子どもたちの発達を保障するために貢献するとの誓いの言葉を述べました。なお、採用されたのは、野口美加さん（第二こじか園）、中谷愉紀さん（こじか園）森萌さん（こじか園）の3名です。

（理事長 山本 耕平）

新入職員から一言

元気いっぱいこじかこに負けられないように元気いっぱいあそびたいです。よろしくお願いします。

（こじか園 中谷 愉紀）

今年から一麦会の一員になれたこと嬉しく思っています。一日でも早く業務を覚えらるよう取り組んでいきたいです。よろしくお願いします。

（こじか園 森 萌）

この度、3月1日に麦の郷本部にて、理事長より新規採用職員の辞令を受けました。

私自身、緊張する中で、とても身の引き締まる思いでした。この日の気持ちを忘れることなく、これからも「じっくり、ゆっくり、たっぷり、ていねいに」の保育を心がけ、子どもの思いに寄り添い努めていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

（第二こじか園 野口 美加）



むぎピース 和歌山 生活支援センター 移転 しました

外観



駐輪場・駐車場です。広く使いやすくなりました！



フリースペースです。教室や会議などで利用できます。写真は支援センターのレクの1つのゆったりカフェや、美術部活動で利用しているところです。



地域活動交流室
おしゃれなBGM、つい鼻歌になったり、つい体が動いてしまうようなBGMが流れる中で、スタッフや仲間とともに過ごすスペース。
最近是将棋がブーム。対局をしたい方は、ぜひ支援センターへ♡



エレベーターがつかまりました！大活躍です。



3F 三沢町表の御地域交流スペース



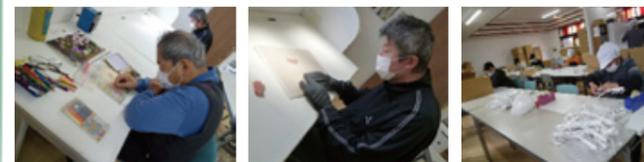
事務室
個性あふれるスタッフ8人の魅惑のスタッフルーム。
興味のある方はのぞいてみてね♡



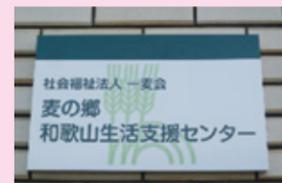
食堂・談話室
昼食、夕食、おやつなどを食べたり、談話するスペース。シューアイス、モナカなどのアイスクリームも販売しているよ！
いつかワイワイいながら食べたいな♡



和室
畳の間に、TV、TVゲーム、マンガなどの書籍のあるスペース。ゴロゴロ寝ころんだり、ゲームをしたり、本を読んだり、まったりのんびりできます♡



作業場です。軽作業やアート活動をしています。



和歌山生活支援センターは、むぎピースの移転と同時に、2階のスペースに移転をしました。

地域活動支援センターとしての居場所が増え、レクリエーションなどの活動の幅が広がられるようになりました。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

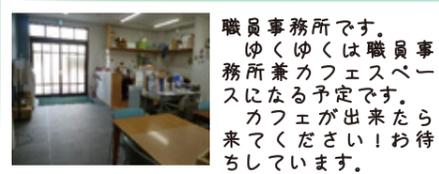


むぎピースは2月28日に移転をしました。寄付や借入などたくさんのご協力を頂き移転を実現することが出来ました。ありがとうございます。

今後も安全、安心な場所と環境で益々仕事に励んでいきたいと思っていますので今後ともよろしくお願ひ致します。
コロナが落ち着いてからみなさんに来て頂けるような企画も計画中ですのでお楽しみに！



総菜作りの調理場です。ここで惣菜、夕食サビスのご飯作りをしています。



職員事務所です。ゆくゆくは職員事務所兼カフェスペースになる予定です。カフェが出来たら来てみてください！お待ちしております。



手作りのお菓子を販売しています。いつでもお立ち下さい。



館内清掃、外清掃もしています。



軽作業場のトイレです。広くなり数も増えました！トイレ待ちが解消されました。



休憩中…みんなゆったりしています。



- 麦の郷 和歌山生活支援センター
〒640-8123 和歌山市三沢町2丁目23-3
地域活動支援センター TEL(073)424-3678
相談支援事業所 TEL(073)423-2267
(共通)FAX(073)488-6311 E-mail: wsc@solana.biz
- むぎピース
〒640-8123 和歌山市三沢町2丁目23-3
TEL(073)427-8149 FAX(073)427-8158
E-mail: mugiw@wasaren.org

間取りイラスト：殿垣内 能範

きょうされんグッズデザインコンクール



入賞
むぎピース
植村 昌一さん



花は、ぜんぶきれいです



うみにいるさかなたちがいかにいるいきものたちげんきだな



とびまわるとりたちげんきだな

いままでハイビスカスの絵を、たくさんかいてそれにグラジオラス、そしてガーベラ、てっぼうゆり、女の子の絵をかいていましたが、本を見て、とりやさかなの絵を、かきたいとおもいかきました。たくさんしゃしんにうつつた絵を、かきたいとおもいその中のハチと花の絵をかいてそれが入賞したからうれしいです。こんどは、またちがった絵を、かきたいからいまかいて、いこうとかんがえています。



入選
くろしお作業所
永井 大介さん



永井大介さんの作品がきょうされんグッズデザインコンクールに入選しました。永井さんは、制作の時間やお昼休みに作品をこつこつと作り続けています。入選した作品の写真ではありませんが、最近作った作品をいくつか紹介します。これからも素敵な作品を楽しみにしています。(くろしお作業所 川崎)



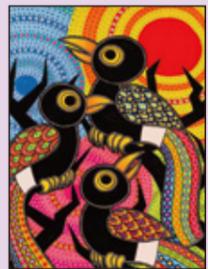
入選
和歌山生活支援センター
山下 恵理さん



ひだまりのうた
ボックスティシューのクリネックスのデザインとして採用されたもの



密林の王者



アフリカの鳥
紀からアート展ポスターになったもの

私の絵を選んでもらえて、とてもうれしいです。明るく楽しい絵なので、少しでもみんながハッピーな気持ちになって、世界が平和になりますように…。



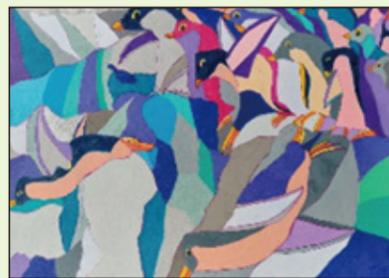
入選
和歌山生活支援センター
澁田 大輔さん



優しいクジラ



カーニバル



勇氣

入選できて嬉しいです。ペンギンの絵を描くのがとても楽しいです。これからもたくさん描きたいです。

星に語りて Starry Sky を鑑賞して

この映画は、東日本大震災を背景に、災害で被災した障害者と支援者たちの活動を、実話をもとに描いたヒューマンドラマで、「きょうされん」が結成40周年記念として企画、製作しました。全国各地で上映されており、わされん1ブロックでも仲間と職員の研修として、今年の3月11日に会場を借りて上映予定でした。しかし、新型コロナウイルスが拡大している中、感染症拡大防止の観点から大規模な上映は中止とし、各事業所少人数で観ることになりました。

3.11地震による津波が町を飲みこんでいる光景は、記憶に残り、今でも忘れられません。

あの惨事のなか、それぞれの人がいろいろな経験を、悲しみから立ち上がっていく姿を見て、仲間って本当に大切な存在なのだと、改めて思いました。

(紀の川生活支援センター 片木 美千代)



仲間の成長について

ラ・テールの上北さんは豆腐の製造で、おもに豆腐の絹、木綿豆腐の型や機具などをきれいに洗ってあげています。去年頃からは日付スタンプを押す仕事もしてくれるようになり、初めは慣れなくてスタンプを上手に押せない事もありましたが、今では自分が納得出来るまで何度もやり直してくれる職人です。

また納品の仕分けも豆腐係の人たちと共に協力してやりこなしてくれています。

(はぐるま共同作業所ラ・テール 松田 康代)



むぎ・わくわくレポート 17

ひびきの郷には『ちゃあちゃん(=おかあちゃん)』が何人もいます。

その中で、毎日美味しい夕食を作ってくれる稲内さんと和の杜で働くTさんは、おばあちゃんと孫のような関係です。

作業所から帰ると、稲内さんの調理をあーだこーだ言いながらお手伝いするTさん。その光景を見るたび本当に家族のようだと温かく感じます。

稲内さんが入院することになった時、Tさんにその事を伝えると、目を大きく見開き、不安そうな表情に急変。

心から心配しているその様子に、普段は態度に出さないものの、Tさんにとって大切な存在なのだと実感し、自分の事のように、心配し合える人がいる、ひびきは『おうち』だなどと感じた出来事でした。

これまで、稲内さんをはじめ地域の方々や、仲間にご家族、職員、みんなで手を取り合い繋げてこられた『自分ごと』の輪が、これからも続きどんどん広がると素敵だと想いはふくらみます。

(居住福祉事業所 ひびきの郷 檜 智江)

花見しゅ



4月1日(金)

ひびきの郷 根来寺



3月30日(水)

くろしお作業所 根来寺



3月29日(火)

あいあいホーム 力侍神社



4月4日(月)

麦の郷和歌山生活支援センター
岡東公園

4月6日(水)

麦の郷紀の川生活支援センター
緑化センター

3月30日(水)

はぐるま共同作業所 亀池公園

光触媒除菌・脱臭装置お礼



和歌山県遊技業協同組合様から光触媒除菌・脱臭装置を5台いただきました。さっそく、トイレと相談室、調理室、職員室に取り付け

ました。

除菌効果は目に見えないので効果の実感はありませんでしたが、脱臭効果は抜群です。まだまだ続くコロナウイルス対策です。子どもたち・職員の健康管理に力強い味方です。

和遊協様、ありがとうございました。

(第二こじか園 山口 薫)

スポットクーラーお礼



昨年度より業務委託で作業させていただいております株式会社ワークスタジオ様より、夏場の暑さ対策としてスポットクーラー3台、ダンボール運びや製品置場用のテナー12台を寄贈いただきました。活用させていただき日々の業務に取り組んでいきます。ありがとうございました。(叶夢向 田村 知己)

むきのひと



障害者就業・生活支援センターつれもて
魚谷 みどり

私は、障害者就業・生活支援センターつれもての魚谷みどりです。平成28年6月からお世話になり7年になります。入社したての頃は、右も左も分からずセンター長、先輩職員の支援に同行させてもらうところから始まりました。また、くろしお作業所、ラ・テルで生活支援を少しですが体験実習させてもらうこともできました。

つれもてでは障害者手帳を取得されている方が障害者雇用で就職を目指す、なかまと企業の架け橋をします。就職が決まってからは、定期訪問、継続して働ける環境作りと安定した生活を送れるよう福祉サービスの調整もします。相談事業所はじめ、行政や医療機関など家族を含めた、あらゆる方との繋がり、なかまと一緒に悩み、泣いたり笑ったりと安心して地域の中で自立した生活ができるような支援をこれからも目指していきたいです。

現場で悩んだ時に相談できる、つれもてのスタッフや法人のみなさん、また関係機関のみなさんとの、たくさんのお会いに感謝！しています。これからも初心を忘れずに、なかまに寄り添い、共に成長していきたいと思ひます。